

ワイワイ教育プラザ

子育て問答集

「言葉・遊び・学習」

子育てで直面する様々な悩み・・・。

初めての子はもちろんのこと、兄弟姉妹であっても、子どもは一人一人違うだけに、悩みも様々です。

このコーナーは、幼稚園・保育園で数多くの子どもたちの面倒を見てきたベテラン教師たちが「よくある悩みへの回答集」という形でまとめました。



目 次

真似ばかりして困っています	3
テレビのない環境で育てたいと思っています	4
塾に通わせた方がいいのでしょうか	5
絵がかけません。絵画教室に通わせようと思いますが。	6
テレビ・ビデオ以外の遊びに関心を示しません	7
文字に興味を示さないのですが	8
言葉が遅くやることがすべてスローテンポです	9
周りの子に「ことばが変だ」と言われます	10
真ん中の子の吃音が心配です	11
何故読み聞かせは大切なの？	12
絵本の読み聞かせをしたいのですが	13
水をととてもこわがります	14
走ることをいやがります	15
二語文が出なくて心配です	16
遊び方がわかりません	17
「おけいこより友達と遊びたい」と泣きます	18
犬を怖がります	19

Question

真似ばかりして困っています

3歳の男の子です。最近お友達の真似をしては笑ったり、5歳のお兄ちゃんの真似ばかりしています。また、お兄ちゃんがいないと甘えてばかりで心配です。一人でもいろいろな遊びを見つけたり、考えられる子に育てて欲しいのですが。

Answer

お母さんのご心配はよくわかります。「真似」と一言言いますが、真似して学ぶとも言われ成長の過程では大切な側面と言えましょう。特にこの年齢は、見たこと、触れたことすべてを、模倣しながら吸収して自分を育てている時といえます。

ご家庭での様子は仲のよい兄弟、大好きなお兄ちゃんのやることを真似したくなるのは自然の姿でしょう。日頃から羨望の眼で見ているだけに、大きいお兄ちゃんのやることを一つ一つやってみる中で挑戦できる満足感や失敗して大きい子との力の違いを感じるなど様々な体験を通し成長している時と言えるでしょう。

大切な乳幼児期のかかわり

物が氾濫し便利さが優先され時代が大きく変わりました。子どもたちがのびのびと遊び生活するには望ましいといえない環境になりつつあります。何でも模倣していく子どもたちに豊かな環境づくりは大切なことです。対応する大人のかかわりや行動、そして価値観を心や体で学んでいくのです。心地よい豊かな環境づくりはもちろんですが、お母さんの愛情とかかわりが基盤となって模倣から創造へとお子さんの可能性を広げつつ、豊かな人間に成長していくといえましょう。

真似（模倣）している内容が大切

最近こんなことがありました。突然世界中を不安に陥れたあの同時多発テロ事件のおきた翌日のことでした。

4歳になる男の子がいつものようにブロックで遊んでいたのですが、よく見るとそれは高く組み立てた二つの長方形（高層ビルにみたてたもの）をさらに飛行機にみたてたブロックで次々と倒すことを楽しんでいました。

私はおもわず背筋がひやりとする思いでした。前日何回も繰り返しテレビで放映されたテロ事件についてなげかけ、どんなにか悲しい出来事であったかを、そして、絶対あつてはならないこと、なによりも生命が大切であることを話しました。

子どもたちは様々なことを見たり聞いたり体験したことを、遊びや生活の中にこうして模倣し表現します。それだけに何を模倣しているかがお子さんの成長の中で大切になってきます。（鈴木）

Question

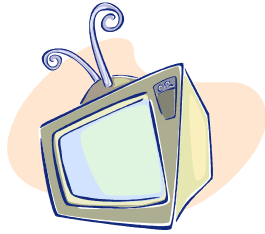
テレビのない環境で育てたいと思っています

0歳児の男の子です。テレビは暴力などの内容が多く、子どもの心や、体の成長に良くないと思いますので、家にテレビを入れないで子育てをしたいと思っています。

Answer

赤ちゃんの成長にテレビはなくても大丈夫です。赤ちゃんというより、大人がテレビを見るので、赤ちゃんも自然にテレビを見るようになるのです。テレビに気持ちが集中して、赤ちゃんの笑顔や成長ぶりに気づかなくなってしまうたら大変なことです。

テレビのない生活を豊かに



確かにテレビがないと家族のコミュニケーションがとれます。子どもがテレビにクギづけになることを考えるとない方が良くも知れませんが、子だくさんの教育学者が家からテレビをなくしたそうです。すると、子どもたちは木工をしたり、いろいろな遊びを考えたり、体を動かして創造的に遊んだそうです。

子どもが育っていく過程でいずれはテレビが必要なきが来るでしょう。良い内容のものや、新しいニュース、心温まるお話や、自然など子どもの成長にとって良いものもあります。また、友達と同じように興味ある話題を楽しむこともできるでしょう。

見るものを決めて、見終わったら切るという習慣が大切です。だらだら見ると良くないでしょう。何を見たいのか、何を見せたいのか、よく考え決めましょう。

絵本の読み聞かせを

テレビはいろいろの情報が選択余地無しに入ってきます。絵本は、考える力を生み出します。ゆっくりと場面を展開することができますし、子どものペースに合わせられます。絵本に親しむ子どもは、想像力豊かな子どもになることでしょう。

本物との出会いを

本物に触れ、直接体験を大切にしたいものです。自然物でも、人とのかわりでも温もりを感じることを優先にしたいものです。(原)

Question

塾に通わせた方がいいのでしょうか

息子は私立幼稚園に通う5歳児です。友達の大半は受験の為の塾に通っています。うちの子は受験をさせるつもりがないので塾に通っていません。友達のお母さんに「どうして塾に行かせてあげないの。小学校に入ってから困るわよ」と言われてしまいました。夫は「必要ない」と言いますが通わせた方がいいのでしょうか。

Answer

「どうして塾に行かせてあげないの。小学校に入ってから困るわよ」と言われると不安になってしまいますね。塾は何のために通うのでしょうか。それぞれの家庭教育方針が違うので、塾に関しては通った方がいいとか、通わない方がいいとは言いきることができません。ただ、この時期の子どもは、色々なことをどんどん吸収します。

特に興味のあることは驚くほどの吸収力を見せることがあります。しかし、この時期にもっと身につけておいてほしいことがあります。例えば、感じる心、相手に自分の思いを伝える力、聞く力、やろうとする意欲、人とのかかわりかたなど。

心の負担になっている塾通い

“お勉強”のための塾は、子どもにとってとても負担に感じていることが多いです。

4～5歳になると、幼稚園での様子が変わってくるお子さんがいます。例えば、友達の作っている積み木を片端から倒したり、友達に乱暴になったり、うろうろするだけで遊べなくなったり、朝からジーンと動けなくなったり様々です。また、「きょうはいやな日なんだー」とため息交じりで教師に話してくる子どももいます。そのような時にじっくりと子どもと話し合くと、「塾に行きたくない」「おけいこに行くのがいやだ」と訴えてきます。

受験シーズンが過ぎると、「もう塾に行かなくていいんだよ。遊ぶ約束をしていいんだよ。」とうれしそうに話してくれます。幼児期は、楽しく充実した遊びや、友達や大人とのかかわりの中で人間として大切なことを身につける時期なのです。

夫婦の子育てに対するお互いの考えを知る

塾に通う、通わないについてももちろんですが、夫婦で子育てに対する考えをよく話し合っておく事が大切だと思います。(高橋)

Question

絵がかけません。

絵画教室に通わせようと思いますが。

4歳の男の子です。保育園で描く絵がいつもわけのわからない絵ばかりで、紙の隅にやっと描いたような絵ばかりです。先生は心配ないとおっしゃるのですが、私も苦手だったので、絵画教室にいったほうがいいのでしょうか。

Answer

幼児の絵は心のメッセージ

お母様にとって苦手だった事だけに心配なお気持ちはよくわかります。幼児の絵は心のメッセージとも言われます。お子さんが生活や遊びの中で様々な経験した内面の感情やイメージが折々のきっけで表現されるともいわれています。

感動したことを表現する絵

こんなことがありました。3歳になったばかりの男の子が夏の花火大会に親子で出かけた翌日のことです。紙いっぱい赤・黄・青等のクレヨンで「ドーン、パンパン」とつぶやきながら、線と点をおりまぜたなぐりがきをするのです。それは胸にせまる花火そのものでした。「ドーン、パンパン。すごいね！花火」と思わず保育士が



言葉にすると、「はなび！はなび！」とさらに描き続けていました。夕方お母さんにお話すると、花火大会で手をにぎりしめながらも食い入るように見上げていた様子を話してくれました。その子なりに、空いっぱいに広がった花火の感動を表現したのですね。

育てよう感性の芽

子どもたちの育つ環境をみると、自然との触れ合いや豊かな遊びを育てる機会が少なくなったと思われます。さらに、うれしい・悲しい・美しいなど感じる心を育てることを見失いがちです。子どもたちの中にある感じる力を引き出すような直接体験ができるように心掛けましょう。今は、表現方法が分からず、紙のすみに自信のない絵を描いているかもしれません。やがて豊かな感性と育ち、絵や言葉、音楽などに表現されるでしょう。

絵画教室は内容や、どんな指導をしているかよく見極めて選ぶことが大切でしょう。上手に描くためだけでなくお子さんの興味や表現方法を獲得するきっかけとして、絵画教室に通うのも一つの選択です。これを機会に親子で楽しく過ごしたり、お子さんがのびのびと自信をもって生活できるよう工夫されるとよいかもしれませんね。（鈴木）

Question

テレビ・ビデオ以外の遊びに関心を示しません

長男 3 歳と 8 ヶ月の男の子をもつ母親です。長男のことですが、テレビ・ビデオは集中してよく見ますが、他の遊びを用意しても遊ぼうとしません。どうしたらよいでしょうか。

Answer

2 人目が産まれると急に忙しく、下のお子さんに手がかかるようになり、つい上の子にはテレビやビデオを見せてしまうことも多くあるでしょうね。でも、他の遊びに興味を持たないのは心配だと思います。3 歳のお子さんも、お母さんにかかわってもらいたいのだと思います。赤ちゃんが眠っている時など、じっくりと遊べるようにお母さんも一緒に遊んであげましょう。

遊びは心と体を育てます

まずは、一緒に遊んであげることです。興味を持ちそうな乗りものの遊び、ブロック遊びやパズルなどを、そばについていて完成するまで付き合っあげたり、絵本を読んであげたり、外でボール遊びやかけっこをしてみたいかがでしょう。お父さんにも協力してもらって相手をしてもらいましょう。健康な体作りのために自由な遊び時間と、テレビ・ビデオの視聴時間をバランスよく考えてあげる必要があると思います。

テレビやビデオに子守をさせないで

小さいお子さんにとって、長時間のテレビ・ビデオ視聴はかなり疲れるものです。小さい頃からテレビ・ビデオを長時間視聴すると友達や物に触れて遊ぶことが苦手な子どもになり、運動面の発達も遅れると言われています。テレビやビデオを長時間見ることに慣れてしまうと他の遊びに興味を示さなくなるばかりか、体の健康に支障が起こることも考えられますので注意しましょう。見せる時のポイントとして、テレビ・ビデオは子ども一人でずっと見せずに、親子で時間を決めて一緒に見ながらコミュニケーションを図るようにしましょう。（三城）

Question

文字に興味を示さないのですが

年中組、5歳の男の子です。クラスの友達みんな自分で本を読んだり、字を書いたりするのですが、うちの子は全く興味を示しません。文字を教えた方がよいのでしょうか。

Answer

周りのお子さんが本を読んだり字を書いたりしていると、お母さんが焦る気持ちも分かりますが、心配することはありません。5歳は意欲の時代といわれ、「調べてみよう」「分かるようになろう」という気持ちがいっぱいです。子どもには個人差がありますが、いつかは興味を持ちます。今、関心を示さないからといって不安になる必要はないのです。子どもが必要を感じ、文字に興味を持った時がチャンスです。その前に、いろいろなことに興味を持ち、やってみようとする意欲を育てましょう。また、自分の考えや思いを話したり、人の話が聞けるようにしましょう。

基本は親子の会話を

「あの雲は、何の形に見える?」「ちょうちょさんは、どうしてお花が好きなのかしらね?」など、子どもが「イエス」「ノー」で答えられるものではなく、言葉のキャッチボールができるような楽しい会話にしたいものです。テレビを見てもそのままにせず、内容について話し合ったり、歩きながら目に入った自然について話し合うのも一つの方法です。また、会話をより楽しくさせるには、子どもの話をよく聞き、よく応答してあげることも大切です。

興味をもてる環境作りを

興味をもたないお子さんが、自然に文字に触れられるように、興味をもつきっかけ作りも大切です。自分の名前は、子どもにとって一番身近な文字です。お子さんの



の持ち物に名前を書いてあげたり、看板や広告などから自分の名前と同じ文字をお子さんと一緒に探すことも文字に興味を持つきっかけになったりします。ただ、お母さんが無理やり文字の方へ仕向けても、子どもはかえって文字嫌いになることもあります。あくまでもお子さんの興味に添って、遊びながら文字に触れるようにしたいですね。

親子で触れ合いを楽しむ

親子で絵本を読むことも大切です。その時に、早く自分で読むようにするのではなく、絵本の楽しさを伝えること、ストーリーを理解したり想像する力を育てることが大切です。お母さんが大きな気持ちでゆったりとかかわることが何より大切です。(林・渡邊)

Question

言葉が遅くやることがすべてスローテンポです

もうすぐ3歳になる男の子ですが、単語(ママ、パパ、ニーニ、等)でしか言葉を発しません。また、何をするにもゆっくりです。大学病院で受診したところ特に異常は見られないと言われました。親として今後どのように接して行けばよいのでしょうか。

Answer

言葉を発する前の段階で、赤ちゃんの頃に一人でゴニョゴニョと話をする喃語の時期がありますがその頃はどうか。あやしたときは笑いましたか。言葉が出るまでにはたくさんの言葉かけが大切です。大人の表情や声のトーンなどを見たり聞いたりして言葉の持つ意味も少しずつ理解していきます。お子さんは、理解する力は付いているようですので、もう少し様子を見てみましょう。

言葉を話させようと気を揉むよりも、たくさんお話をしましょう

もうすぐ幼稚園に入るのに言葉が遅いことはとても気になりますよね。しかし、大学病院でも異常がないと言われたのですからあまり神経質にならないことです。

お母さんが歌を歌って聞かせたり、文字の少ない絵本を読んであげたり、一緒に子ども向けの番組を見ながら説明をしてあげたり、散歩をしながら周りの様子を見て、犬がいたよ。車がきたね。等と、話してあげましょう。

また、お兄ちゃんともいっぱい遊んでもらい、お子さんの言いたいことをお母さんが言葉で表してあげましょう。

ゆっくりでもできた時は誉めてあげましょう

言葉が遅いのと比例してきっと運動面の発達もゆっくりなお子さんなのでしょうか。歩き出したのはいつ頃でしたか。歩きはじめが遅いと他のことも遅い場合があります。「何をするにもゆっくり」とありますが、まだ3歳位ですと指先の機能も未熟なのは

当然のことです。動きが遅くてぎこちなくても頑張っているのなら、それを認めてあげ、できたときは誉めてあげましょう。それがお子さんの自信につながっていくでしょう。

年齢よりも運動面が極端に遅れているようでしたら、一度、身近な保健所に行って相談するのも一つの方法です。

また、手先や指先を使った遊びや、運動遊びは、脳を刺激すると言われています。お母さんと一緒に粘土を丸めたり、クレヨンでなぐり描きをしたり、紙をちぎったりする遊びをしてみてもいいかもしれません。(梶原)

Question

周りの子に「ことばが変だ」と言われます

4 歳の女の子です。もうすぐ 5 歳になるというのに、赤ちゃん言葉がぬけないのです。今まで平気で話していたのですが、友達から「ことばが変」と言われて、本人が気にし始めました。親の私もどうしたらよいかわかっています。

Answer

友達に言われて本人が気にしているということは、友達と違っていることに気づいたということですね。

幼児は「テンテイ(先生)」「くだちやい(ください)」などタ行やサ行に幼児音が残っている場合が多くみられます。5 歳頃になると幼児語や幼児音は消え、大人に似た発音に近くなってきます。

友達と触れ合って遊んでいるうちに、ことばや発音の違いに気づき、「ことばが変だ」といわれるのを気にするようになったのは、本人が成長するためにも大事な機会であると捉えてよいのではないかと思います。

焦る必要はありません

お母さんが、子どもの発語や発音をなんとかしようと思って、その度に修正したり、否定したりするのは、かえって子どもがことばを話しくなくなったり、自信がなくなったりします。社会性が発達してくる 5 歳頃から 7 歳頃にかけて、自然に治っていく子どもがほとんどです。

生活や遊びの中で自然に治していく状況をつくりましょう

体をよく動かして遊び、友達と大いに触れ合うことが社会性を伸ばし、ことばの発達を促すことになります。4・5 歳になると絵本を見て話したり字に関心をもつようになります。お母さんが絵を見て発音したりして正しい発音の唇の動きを見せたり音を聴かせていくことも一つのやり方でしょう。遊びや生活の中で人とかわりながら、正しいことばや発音に触れさせ、正しい話し方を獲得できる環境を作っておくことが大切でしょう。



専門機関に相談する

言語障害には、構音障害、話し方の異常、ことばのリズムの異常、ことばの発達の遅れ、脳損傷によることばの異常、情緒障害によることばの異常があります。専門の機関に相談することも一つの方法です。公立小学校の「ことばの教室」などを訪ねて相談してみるのもよいでしょう。(原)

Question

真ん中の子の吃音が心配です

5歳と3歳と1歳の3人の男の子の母親です。この頃、真ん中の子が吃り出しなかなか直らなくて心配しています。「ゆっくりでいいのよ」と注意すると、ますます吃ってしまいます。どうしたらよいでしょうか。

Answer

吃音の原因はいろいろ考えられますが、気持ちが焦ったり、緊張するなど心の不安定が考えられる場合と、口の機能の異常から生じる場合があると思います。よく子どもの様子を観て、専門家に相談する等、対策を考えましょう。

どの子にも公平に愛情をかけてあげましょう

どの子も『お母さんにかわいがられている』と思うように気を配りたいものです。長男だからとか末っ子だからと目のかけかたや、気配りに差が出ないように気をつけたいものです。真ん中のお子さんは、赤ちゃんが出来たことでお母さんを取られたと思って不安になってしまったのではないのでしょうか。上にはお兄ちゃんが、下には赤ちゃんがいて自分は十分に甘えたい気持ちを出せなかったのでしょうか。「寂しかったね」「悲しかったのね」と気持ちを分かちあえるようにしましょう。

子どもにとってお母さんは一番なのです。お母さんはとても大事な存在なのです。お母さんの様子が少しでも変わると気にかかったり、不安になったりします。お母さんの愛情を感じてこそ気持ちが安定するのです。

『あとで』は禁物

お母さんに話しても「さっき聞いたでしょ」「あとで」などと聞いてもらえないと寂しくなったり、悲しくなったりします。「お母さん、どうしたのかしら」と心配になります。そして、気持ちが落ち着かなくなります。「あらごめんなさい。ゆっくり話してね。聞いてるわよ。」と優しく受け止めてあげましょう。

そして、赤ちゃんが寝ている時には真ん中の子どもの膝に抱っこして絵本の読み聞かせをしたり、しり取り遊びをするなどしてスキンシップを心掛けましょう。

「今までと変わらないんだな」「やっぱり僕のお母さんだな」「僕のお母さん大好き」と思うようになるとよいですね。幼児期の吃音は一時的なものが多く、親の育児を見直すことで自然に直ることが多いです。(栗田)

Question

何故読み聞かせは大切なの？

「読み聞かせ」のブームが起きています。私も2歳の子どもに時々絵本を読んであげています。私の幼い頃に母や祖母に読んでもらった懐かしい思い出があります。改めて「読み聞かせ」のメリットを教えてください。

Answer

最近では子どもの虐待や思春期の様々な出来事を聞きますが乳幼児期の親子の絆が弱かったのではないとも言われています。絵本の「読み聞かせ」することによって親子の心の触れ合いが豊かにできますので乳幼児期にとっては欠かせないものとなります。核家族が増え祖父母とかかわる機会も少なくなりました。全国で「読み聞かせ」の花が咲いています。忙しい中でも少しずつでも読み聞かせのひとつときを楽しんでいきたいものです。

読み聞かせは抱っこして

お母さんのお膝に抱っこされるのは、子どもが一番安心する時です。お母さんの体温や匂いが子どもに自然と伝わり、お母さんに寄り添いながら心をゆだね愛情を感じる事ができます。お母さんの温かく優しい声は豊かな言葉になってお子さんの心に刻まれ穏やかな気持ちになります。その時間は母と子が共有し、一体感を味わうことができる時です。

乳幼児期は親子が最も密着して生きていくための安心感を養っていく時期です。絵本の読み聞かせは親子の心の絆を結ぶとてもよい方法といえるのです。

心に残るお話しは大きくなっても忘れない

幼児期に聞かせてもらったお話しや父母のぬくもりは大人になっても心に残っているとされます。大人になってふと何かの壁にぶつかった時に懐かしい思い出



となって鮮明によみがえってくることもあります。お話しの中にはいろいろの要素が織り込まれており、その時々には教訓にもなったり、その時代の国々の考えだったり、様々なことを想像し、夢や希望を膨らませることができます。

読み聞かせは親子の触れ合いを通して子どもの心を豊かに育む大切な営みですから、ぜひ続けてほしいと思います。(栗田)

Question

絵本の読み聞かせをしたいのですが

1歳1ヶ月の息子を膝に座らせて、絵本の読み聞かせに挑戦しているのですが、絵本をめくるほうに興味があるようで、読み終わっていないのに、勝手に本をめくっていったりして困っています。

Answer

1歳1ヶ月のお子さんに絵本の読み聞かせと、張り切っていっぱいしますね。とても素晴らしいですね。お子さんの興味が絵本をめくることにあるようですね。次は？次は？とめくるのを楽しんで変化や、おもしろさに心が動いているのだと思います。この頃の遊びは、絵本もおもちゃの1つです。ストーリーを語るのは、もう少し大きくなって4・5歳頃になると楽しめるようになります。今、お子さんの興味をもっていることに付き合っただけでいいことが大切ではないかと思います。

お母さんと一緒にいることが安心の場です

お子さんと共に、喜んだり楽しんだりすることが一番ですね。車の絵だったら「ブーブー」猫の絵だったら「ニャンニャン」犬の絵だったら「ワンワン」というようにめくるリズムに合わせて言ってあげるようにして、お子さんの気持ちと共感するようだったら続けてみましょう。そのうちに、絵に意味があることを、感じとっていくようになり、お子さんが「ブーブー」と真似をするようでしたら大成功です。

だんだんと、「ブーブー、出発進行」都下、「ニャンニャン いい子いい子ね」などお子さんが言葉を覚えて行くのと同じように、お母さんが語りかけてあげることが大切です。

絵本の読み聞かせも、お子さんの年齢た状況に合わせて工夫し、楽しい出会いとなるようにしたいものです。

親子の触れ合いを楽しく

お子さんと絵本をめくりながら、楽しいひとときを過ごす親子の触れ合いが何よりも大切なことです。読み聞かせようとするよりも、お母さんが絵本に興味をもって、おもしろがったり、感心したりするとお子さんの興味も向いてくるようです。絵本を通して親子のコミュニケーションを大切にして豊かな心を育てていきましょう。

(樋口)

Question

水をととてもこわがります

3歳の男の子をもつ母親です。1歳の頃から髪を洗う時などに水が頭にかかるのをとても嫌がり、大声で泣いたりして、今でも水をととてもこわがります。プール教室などに入れた方が良いでしょうか。

Answer

焦ることはありません。水に対しては個人差があり、水にすぐに慣れる子どももいれば、感じやすかったり慎重だったりしてとても時間がかかる子どももいます。例えば3歳の時には水に興味すらもたなかったのに、4歳頃になってから水で思いっきり遊ぶようになった子どももいます。水がこわい・嫌いだという子どもは、水の冷たさが嫌だったり、顔にかかるのが不安だったりとその子なりの理由もあるようです。安易にプール教室に入れようとするのではなく、まずは子どもの様子を良く見ながら水に対して何を怖がり、嫌がっているのか理解してあげることが大切ではないでしょうか。

生活の中でもいろいろな経験ができるように

毎日の生活の中でも、水を使ったり遊んだりする経験はいろいろあると思います。お風呂は体や髪を洗う場と決めつけるのではなく、子どもと一緒に水とかかわる場としてもとらえることもできます。例えばお子さんと一緒に湯船の中で魚や人形のお



もちやを使って遊んだり、水鉄砲をして楽しむこともできますね。ちょっとした時間でも子どもと触れ合うことにより、楽しさを感じることができるものです。

また、暑い日にはそのような遊びを外で楽しんだり、植物への水やりや、水まきなどの経験を重ねたりして、自然に水に親しんでいけるようにしていきるといいですね。

親子で一緒に水と触れ合うことから

プールなどに行った場合では、浅いところでお父さんやお母さんが一緒に水につかたりすると、子どもも安心して水の中で遊んだりします。親子で触れ合いを楽しむことから、お父さんやお母さんに受け止めてもらっているという安心感をもてるようになり、自然と水にも親しんでいくでしょう。特に水をこわがる子どもには、安心感をもてるようにすることが大切です。反対に、早く水に慣れさせようと無理強いするようなことは逆効果になりがちです。

子ども自身が「水の中っておもしろいんだ」「こわくないや」と感じていけるようにあせらず温かく見守っていつてあげましょう。(清水)

Question

走ることをいやがります

5歳の男の子です。「僕は遅いから、走るのは嫌だ」と言い、走ることや、鬼ごっこなどの遊びに入りません。どうしたら体を動かす遊びが好きになるでしょうか。

Answer

友達と自分を比べてみることができるようになったのは成長の表れです。3歳頃までは、走ることについて、速かろうが遅かろうが、自分の動きを楽しんでいたのではないのでしょうか。「僕は走るのが遅い」と言うことは、自分と友達などを比べようになったということです。「自分と友達を比較してみるほど、大きくなった」からこそ、お子さんが「走ることは苦手なこと」と感じるようになったのです。これは、成長の表れです。まず、その成長を感じてあげましょう。

精神的に後押しをしてあげましょう

子どもには個人差があります。走ることは苦手でも、他にお子さんが得意と感じていることがあると思います。体を動かすことでなくてもいいのです。描くこと、作ること、歌うこと、話をする、友達に優しくすることなどがあると思います。努力している姿もあるのではないのでしょうか。まずはお子さんが頑張っている姿を認めてあげたいですね。

一緒に体を動かすことを楽しみましょう

まわりから、ただ「頑張れ、頑張れ」と言っても、具体的によく分からない場合があります。大人でさえ一人で頑張ることは大変なことです。反対に遊びとして楽しめれば、自然と好きになります。体を動かすことを嫌いにならないためには、得意なものをもてるようにすることも1つの方法です。簡単にできるようなものを、自信がもてるようになるまで支えてあげることは大切なことです。この自信を少しずつ広げてあげましょう。また、走ることをお母さんも一緒に楽しみ、距離や速さにこだわらずに遊ぶことも大切です。速さが決定的に違い、距離ができてしまうとあきらめの気持ちが強くなり、いくらまわりが応援しても意欲を無くしてしまうものです。一緒に遊びながら「走り方がカッコいいね」「速く走れるようになったね」「いっぱい走れるようになったね」と一つ一つほめてあげると、走ることに少しずつ自信がもて、気持ちも持続して行きます。遊びが楽しくなれば、走ることも自然に楽しめるようになると思います。(林)

Question

二語文が出なくて心配です

2歳2カ月の女の子です。まだ二語文がしゃべれません。遊びは活発で、単語はかなりしゃべります。私の話はわかっているように思えるのですが、どうして話せないのか心配です。

Answer

子どもが2歳くらいになると、「言葉の遅れ」が心配になる方が多いですね。言葉が遅いと、知的発達に問題があるのではないかと心配するようですが、言葉の発達だけでは判断できるものではありません。2歳過ぎても言葉は殆どしゃべらないと言う子どもたくさんいます。子ども一人一人の発達の仕方はそれぞれ違います。

言葉の発達には個人差がある

活発に遊び、運動機能の発達は順調のようですので、話し言葉の発達はこれから表れてくるタイプのお子さんだと思います。お母さんの言うことは、よく分かっているということです。心配ないでしょう。他者の話を理解するという「理解言語」が発達していれば、自分で話す「表出言語」は必ず出てきます。わたし自身も子どものころ周囲の人からおとなしいしゃべらない子とされていたのですが、3歳を過ぎるととんでもないおしゃべりになったそうです。それまで蓄積したものが一度に放出されたのでしょう。それぞれの発達パターンがあるのです。



会話を楽しみましょう

言葉の発達には言語刺激が必要です。子どもに教え込むよりも、子どもと楽しく会話するように心掛けてください。お母さんとの「おしゃべり」が、子どもにとっては素晴らしい言語刺激になるのです。「絵本の読み聞かせ」をおすすめいたします。絵本を媒介として親子の会話が弾み楽しめるといいですね。(福嶋)

Question

遊び方がわかりません

4歳の女の子です。先日、幼稚園で親子で遊ぶ催しがありました。先生が企画してくれた時間は一緒に楽しめたのですが、自由にどうぞと言われるとうしたらよいか分からなくて困ってしまいました。

Answer

自分の子どもの頃には好きなことをして、夢中になって遊んだのではないかと思います。最近の、幼稚園では親が参加する行事が増えてきたようですね。幼稚園では、子どもがお父さんお母さんと共に遊びを楽しんだり、またお父さんやお母さんが子どもの頃を思い出しながら子どもとの遊びのきっかけ作りをしたりして遊びの大切さを見直していくことが考えられているようです。

子どもの気持ちになって

子どもと楽しい時間を共有することで、「あー楽しかった」と感動する時を過ごすことができます。大人が子どもの目の高さにしゃがんで「どうするの?」「やりかたをおしえて」などと聞くなどして、まずは子どもたちがどうしたいかを探り子どものやり方に合わせて入り込むことです。

子どもの気持ちに寄り添ってみてみると、一緒に考えたり、遊びを発展させたりして、より楽しい遊び方を工夫し、創り出すことを体験していることに気付くようになるでしょう。その場合、大人の提案が子どもにとって難しすぎることがないように気を付けましょう。

一緒に遊ぶ

以前、幼稚園で落ち着きがなく友達をよくたたいていた子どもがいました。お母さんに理由を聞いてみると「うち子どもと遊ぶ時間を大事にしています。」と話されました。それは、お母さんが編み物をしているそばで子どもがミニカーで一人で遊んでいることでした。これでは同じ部屋にいるというだけで一緒に遊んでいるとは言えません。

大人も子どもと触れ合いながら、共に笑ったり楽しんだりして初めて一緒に遊んだことになるのではないのでしょうか。親子で楽しく遊んだ思い出をたくさん創ることが心を豊かにしてくれることでしょう。(高橋)

Question

「おけいこより友達と遊びたい」と泣きます

4歳の男の子です。幼稚園の帰りに友達と一緒に遊びたがり、ピアノのおけいこに行きたくないと泣きます。高い月謝を払っているおけいこは絶対に休ませたくありません。どのようにしたらよいでしょう。

Answer

幼稚園に入園して友達と遊ぶことが楽しくなってくると、幼稚園が終わってももっと一緒に遊びたいと思うのは、お子さんに仲良しの友達ができたとのことです。友達関係を深めるよい機会なので、できれば友達と遊ぶ時間をたっぷりあげたいものですね。

遊びで育つコミュニケーション能力

4歳の頃は、友達とかかわってイメージの世界を広げたり、遊びの充実感を味わったり、遊びを通して多くのことを学んでいます。また、自分の思い通りにならない体験や、自己主張の大切さなど貴重な体験がえられる場ともなります。幼児期に多くの友達と付き合う体験をしている子は大人になってから、コミュニケーションが上手くとれ、社会に出てからも物おじせずに友好関係を結ぶことができます。幼児期にいかに多くの子どもたちとかかわる場や機会をつくってあげることができるかは重要なことです。友達と遊びたいという欲求が出ているときは友達と遊ばせてあげた方が子どもにとって貴重な思い出がつかれるでしょう。どうしてもおけいこがやめられない場合は、子どもとよく話し合い、子どもが納得いく形で友達と遊べる日をつくってあげましょう。

子どもの気持ちをもう一度よく考えて

子どもにおけいこごとを習わせるきっかけというのはどのようなことだったのでしょうか。友達がやっているからとか、小さいうちから習わせた方がいいと言われているのでわが子にもとか、意外と単純な動機だったのではないのでしょうか。

ある幼稚園では、おけいこのある日は朝からお腹が痛くなるという子もいます。その子にとっておけいこが精神的負担になっている場合は、その負担を取り除いてあげるのもお母さんです。自分でやりたいと思って始めることが最もよい時期であると思います。それまで環境作りをしてあげましょう。

音楽を聴いて楽しんだり、本物の絵画を見たりすることも大切なことです。お母さんと一緒に楽しみながらできることが身近なところに沢山あります。工夫してみましょう。(鈴木)

Question

犬を怖がります

4歳の女の子です。幼稚園の帰り道、犬がいて吠えられました。今までも大丈夫だったのでそのまま先に行き、振り返ってみると娘は汗びっしょりになって泣いていたのです。こんなわが子にイライラします。どうしたらよいでしょうか。

Answer



犬がよほど怖かったんですね。このようなお子さんのショックに気付いてあげましょう。こんな時は子どもの気持ちに寄り添って「お母さんがいるから大丈夫」と言って抱きしめて安心させてあげてください。日頃からもっと子どもの様子を理解してあげましょう。「そんなことくらい」と思えることでも子どもにとっては、どうしようもなくなってパニックを起こすことがあります。事情を察してとにかく子どもの気持ちを先に落ち着かせ「怖かったね」と受け止めてあげましょう。

親の尺度で考えないで

親はさほど怖くないものでも、子どもにとっては犬がものすごく大きく見えたり、恐ろしかったりすることがあります。子どもは体が小さいので自分より大きい動物などに恐れをなし、怖いものへの対処の仕方を知りません。大人の行動や態度が不安を解消してくれます。犬のいる道を子どもの手をしっかり握って歩きながら具体的に教えてあげるのも一つの方法ですね。

動物との正しい付き合い方を

犬や猫は抱いたり撫でたりして可愛がる場合もありますが、時には吠えたり噛みついたりすることもあります。また、可愛いがるつもりでも、動物には迷惑なこともあります。知らない犬や猫には手を出さないように注意を払いましょう。怖い経験をすると動物を受け入れることができなかつたり、苦手だつたりしてなかなか仲良くなれないものです。

子どもの様子にイライラするより、子どもの目線になつてものごとを見られるようにしてみたらいかがでしょう。子どもの気持ちが伝わってくるかも知れませんね。

(栗田)